資料３



# 「地域おこし協力隊」活用に向けた検討（勉強会②）経過報告（概要）

■日　時　H25 年４月 17 日（水）17:15～18:38
■場　所　応接室
■出席者　芦沢委員・徳地委員・白井委員・渡辺委員（欠席:寺山委員）
■本　庁　企画経済部企画課門井主任
■事務局　地域振興課長佐々木　地域振興担当主査袴田

【住宅関係】

●受入れの場合、住宅の確保が重要なポイントである。
　・他市町村の事例…受入れ自治体で用意し、家賃全額支払いや一部負担
●空き職員住宅は、全て築 33 年以上経過し、修繕経費をかけても使用するのは難しい。
●民間会社の空き社宅を調査してはどうか。
　（別途、照会:平屋 25 千円・2 階建 40 千円・寮 15.75 千円だが、一般には賃貸していない。）
●民間 AP（アパート）は、敷金、礼金が基本的に負担となるのが通常。

【募集関係】

●他市町村の募集状況は？
→募集期間内に終了している市町村もある。
→石狩管内より、地理的条件が悪いところも、募集終了となっている。
→浜益は、地理的条件が良い場所である。
→道内の受入れ状況であるが、道外の関東、関西方面から転入している協力隊員が多い。
●「何をやりたいか」また「目的をもってやってほしいもの」を募集時に明確にすることが必要である。
●募集内容に興味のある人は、それなりに募集してくるはずで、定住にもつながる。
●募集の仕方を工夫する。「食品開発、自然素材活用など…」
●漁業権の取得期間は、年間 120 日以上漁業に従事し、船頭（漁業主）の証明、漁協理事会の承認など経ることになる。（理事会６月・12 月）
●現在、潜水の資格を持っている漁師は、５名位いる。資格取得は、鹿部町の（北海道立）漁業研修施設で取得可能。（徳地委員…漁業支援で、授業料無料）
●北海道漁業者就職フェアでＰＲするが出来ないか。（H24 年函館市・旭川市で開催）
　主催／北海道漁業就業支援協議会、北海道

資料３



●現在、岩ノリやミミノリを採取している漁師はいない（高齢化、ニシン漁時期）が、地元ではニーズがあり、商品価値も非常に高い。
●地元漁師は、規格外の雑漁の処分に困っている。
●養殖ホタテは、量も質も年間通じて安定し調達可能であり、燻製加工（珍味）などの加工品が出来る。加えて、浜益牛や野性の鹿肉も商品開発可能である。
●食品加工できる人がほしい。漁師は、歓迎する。付加価値をつけられる。
●農業より、漁業の方が就業・起業しやすい状況である。

【農業関係】
●果樹農家も最大 30 軒あったが、現在は 5 軒ほど。果樹（農家）をすることは、農地法の手続きが難しい。（新規就農）
●「干し野菜」がブームであり、商品化もしやすいと思う。（栄養価高い）

【その他】
●マネージャーをどうするか。
集落支援員は、市役所 OB や自治会役員、地元有識者が多い。外部委託は、募集から活動中をサポートしている。（喜茂別町）
●募集人員は、1 人か、複数か。（メリット、デメリット）
●留萌市の「地域おこし協力隊の取組」なども、詳細に確認してはどうか。